



皆様、新年おめでとう
 ございます。年が明けて
 しばらく経ちますが、い
 かがお過ごしでしょう
 か。今年は酉年、「酉」
 の字は果実が成熟の極限
 に達した状態を表すとさ
 れ、運氣もお客様も取り
 込んで、商売繁盛につな
 がるといわれます。

今年には奄美群島の国
 立公園指定が予定され、
 関西との格安航空路線就
 航も秒読み段階となり、
 様々な追い風が吹く、ま
 さに千客万来の予感がし
 ます。でも、目先の成果
 のみを追求するのではな
 く、しっかりと長期的視
 点に立った地域経営を行
 い、人材育成や基盤整備
 などにも取り組むこと
 が、政治や行政に求めら
 れています。

昨年「民主主義とは
 何か」を改めて考えさせ
 られた一年でもありまし
 た。数の論理や多数決と
 いうルールも大事です
 が、何でも言いやすい場
 づくりと、お互いに歩み
 寄れる議論の積み重ねを
 重視した政治の活性化
 に、今年も取り組んで参
 ります。

安田そうへい



そうへいの議会トピックス
 直近の議会での決定事項や進捗状況についてお知らせします

1 平成 28 年第 4 回定例会 (12 月定例会)
 における議案について

- 28 年度一般会計補正予算第 3 号 (5 億 728 万円の増額)
 ⇒ 結果、一般会計総額は 334 億 5157 万円。
 その主な内容は、
- ①障がい者福祉費 (介護給付等事業費・更生医療費等) 2 億 3060 万円
- ②生活保護費過年度分国庫支出金超過受け入れ返還金 2 億 2824 万円
- ③地域総合整備資金貸付金 1 億円:奄美空港ターミナルビル改修への融資
- ④森と水のまち住用観光プロジェクト工事請負費 2600 万円:内海周辺の施設整備
- ⑤松くい虫枯れ木対策費:2250 万円
- ⑥特別職 (市長・副市長・教育長・議員)・職員の人件費増額分約 2200 万円
- ⑦住用町城へき地福祉館工事請負費 1361 万円
- ⑧あまみ F M 無線回線設置工事請負費 1300 万円:市街地放送局とクリーンセンター付近中継局を無線で結ぶ
- 国民健康保険事業・介護保険事業など 6 特別会計・企業会計の補正予算
- 指定管理者の指定:内海公園とバンガロー施

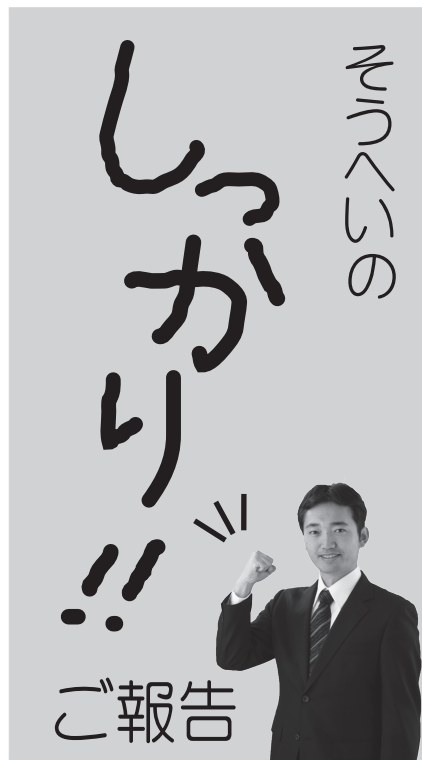
設・黒潮の森マングローブパーク・木工工芸センター・小宿農林産物直売所の 4 施設

●今年度の人事院勧告により、特別職の期末手当が増額しました。0.1 月分増えて 3.25 月分に (全国の多くの自治体と同レベルに)。一般の議員で約 3.5 万円の増額です。今後も人勤に合わせて特別職の期末手当を増減させる方針です。

●奄美市独自の自衛隊配備計画に関する説明会開催の請願 ⇒ 不採択 (ただし、議員による勉強会・討論会などの開催を模索中)

2 議会活性化について

昨年 9 月、議会内にワーキンググループを設置し、月 2 回のペースで論議とできることからの実践を進めています。既にメディアで発信されたとおり、今年度分の政務活動費についてはこの夏以降、議会だよりと HP で用途を公開します。また、常任委員会を 3 日間に分けての開催、委員会での調査権の活用、議員研修会の活発化、議会報告会の内容改善、議会としてのフェイスブックの活用などについても議論中。議会活性化のためにも、市民の皆様の後押しをお願いいたします!



「全国の中でも鹿児島県は子どもむし歯が多く、県内でも特に奄美が多い」という話を以前聞いたことがあり、調べてみた結果、まさにその通りでした。これを個人の問題のみに帰結させず、社会全体として改善に取り組みべき課題と捉えています。

1. 歯の健康づくり



現在、笠利地区のみで行われている小6・中3生へのむし歯ゼロ表彰者は、ふれあいの郷にて顔写真付きで1年間掲示されます。笠利町時代から続く、地域のつながりあふれるこの取り組みを、住用・名瀬地区にも広げていきたいです。

も積極的
に取り組
みたい」
と答弁し
ていま
す。
子ども
や孫に歯

県平均を上回っています
が、3歳児では68%と県平均より10%低い状況です。
また、小学校入学前の検診では52%。これは県平均の
中学1年生の健全歯の者の
割合と同等の数値であり、
幼少期にいかにかむし歯が多

いかを示しているといえま
す。
これに対し、保育園・幼稚園・小中学校では年一回の歯科検診や歯磨き指導などを
行っていますが、笠利・住用の
保育園全園では3歳以上を
対象にフッ化物洗口を実施
(名瀬では半数で実施)。その
成果か、笠利では小6生と中3生
で多くのむし歯ゼロ表彰者が
生まれています。教育委員会も
「フッ化物洗口は国や県が
むし歯予防の有効な手段として
推進しており、本市でも積極的
に取り組みたい」と答弁して
います。

2. 自然環境の保全と活用

保全と活用



いく
仕組
みの
構築
が課
題で
す。

いよいよ迫ってきた「奄美群島国立公園(仮称)」の実現。環境省が提示している「環境文化型・生態系管理型国立公園」という概念については、集落ごとに培ってきた文化・芸能や奄美独特で希少な生態系と人の営みが共存する環境が評価されたものと捉え、これらをしつかりと受け継いで

また、増えるであろう観光客に対する備えとして、自然環境適正利用のためのルール作り(ガイド同伴義務付け・車両進入規制・人数制限や立ち入り規制など)やガイド組織の育成については目下準備中とのことで、スピードアップして取り進むよう要請しました。

笠利町屋仁集落で作られている田芋(たあまん)の水田。奄美において貴重な水田も、将来にわたって保全すべき文化的・産業的景観です。地域の中にある、これまでも当たり前と思っていたものこそが、私たちが受け継ぐべき宝となり得ます。

1

藻谷浩介氏

「藻谷浩介が考える、奄美を元気にする方法」

南海日日新聞社主催

著書『里山資本主義』で知られる地域活性化の研究著者・藻谷氏の率直な講話は痛快でした。大都市圏と異なり、奄美では全年齢層で人口がゆるやかに減少しているの、若年・生産年齢人口の医療・福祉などの負担はこの先大きくならない、だからこそ若い世代を呼び戻す努力をすべきとの

若者が戻らない地域の共通点

- × 道路が良くなれば人口が増えると勘違い
- × 親が子供に「ここはダメだ」と言う
- × 観光客に地酒・地魚・地野菜を出さない
- × 生鮮品を都会に生で安売りする
- × 役場職員や議員が勉強会に来ない
- × いくら頼まれても空き家を貸さない
- × 自分の子供は都会に出しておきながら、都会から移住してきた若者の悪口を言う
- × 今だけ金だけ自分だけの補助金依存症

■ 藻谷浩介氏の講演会より

こと。そのためにも、島に生きる私たち大人が「島を卑下しない、自分が住む地域を卑下しない」ことが大切で、子どもや若者たちに

「将来は島に戻って、この

地域を受け継いでほしい」

と堂々といえる、誇りある

地域づくりこそが、奄美を

足元から元気にしていく道

筋だと実感しています。

2

中田宏氏

「無題」

奄美大島青年会議所主催

前横浜市長で知られる中

田氏の講話は、私が題を付

けるならば「自立を高める

地域づくり」でしょうか。

中でも「市民の気持ちや善

意を引き出す仕組みづく

り」が大事で、人口300

万人超の横浜市において3

年かけて準備して、ゴミの回収を15分別にした結果、ゴミの量が40%減り、焼却炉も7つから3つに減ったそうです。様々な地域の課

特 奄美群島の中心である奄美市では、年間を通じて、民官問わず様々な主催者・テーマによる講演会やシンポジウムが開催されています。その中でも、私が昨秋に受講した、奄美の将来にきつとつながる講演会についてご紹介いたします。

講演会いろいろ

集

題をその地域の中で解決し

ていくためにも、市民が参

加・協力しやすい仕組みや

仕掛けをつくっていくこ

と。これが地域のリーダー



■ 中田宏氏の講演会より

の大事な仕事であり、ひいては地域の自立や自治を高めていくのにつながる、ということですが、

3

山田吉彦氏

「鹿児島から見た

海洋国家日本の姿」

東海大学同窓会

鹿児島支部主催

同大学海洋学部教授であ

る山田氏による講話は、奄

美の安全保障を考える上で

大いに参考になりました。

いわく、いま中国の艦船が

しきりに奄美大島へ横当島間を通航しており、不穏な状況が続いている。ただ、日本の地政学的な力は大きく、アジア大陸から太平洋を見ると日本列島が横たわっており、中国・韓国・北朝鮮・極東ロシアは日本近海の国際海峡を横断しなければ太平洋に出られない。日本は有事の際に近海の海上封鎖をすれば、各国は石油や食糧の輸入ができなくなり、兵糧攻めを強いられることになる。だから、日本はとりわけ船の通航の多い南西諸島の防衛を固めておくことが大事であり、そうすることで各国はうかつに日本に手を出せなくなる。これがまさに「抑止力」であり、一般の自衛隊陸上部隊配備もこのような戦略に基づくものといえます。

上げ潮ムードの奄美群島。来年には大河ドラマ『西郷どん』の放映が予定され、世界自然遺産登録も視野に入る中、この追い風を一度過ぎのものにせず、着実に奄美が繁栄していくには何が必要なのかを考えるとき、私は「民間が主役になること」と「そのためにも、政治が良くなること」に思いが至ります。

民間が主役になる、とはどのようなことなのでしょう？一般論ですが、都会と比べて大企業などの少ない地方では、民間の企業・団体の力が相対的に乏しい。裏を返せば、地方では政治や行政の影響力・存在感が大きいことを示します。とはいえ奄美市においては、政治・行政がもつ資源（人材・資金など）には限りがあり、その一方、各地域や集落単位で様々な社会的課題が起り、かつ複雑・多様化しており、やはり民間（企業・地域団体・市民団体など）が主役となつて問題解決に当たっていかなければ、本当に満足していく、安

定した生活の継続やコミュニティの維持はできないのだからと考えます。

「政治に任せておけば安心だ」「行政が何でもやってくれる」という、政治・行政への依存意識を捨て、「自分たちの地域は自分たちで守る」という当事者意識をもつことこそ、民間が主役になる第一歩ではないでしょうか。そこに

これからの奄美に必要なこと

コラム column

において政治や行政も基本的に民間のサポート役に回る、という発想や政策の転換をする必要があります、そうでなければ地域全体の健全な成長・繁栄の姿というものは生まれてこないと感じます。政治・行政が主役である限り借金が減らない可能性が強く、持続可能とはいえないからです。

そして政治も、新しい時代の変

化を捉え、自ら変わっていく必要があります。民間が主役であるためにも、大事なものは民間と政治・行政との「情報の格差」をなくすることであり、情報の提供・発信もこれからの政治家の重要な役割です。そして、政治の質を高めていくためにも、何でも言いやすい言論空間づくり、議論しやすい場づくりを民間と共同で取り組まなくてはなりません。あるテーマについて少数意見を尊重し、賛成者も反対者も互いに歩み寄れる一步を探っていく。この不断の努力によって懐の深い政治を実現していくことこそ、英国の国民投票を他山の石として得られる教訓でしょう。

また、民間により政治の府である議会をチェックする仕組みも必要と、我がことながら感じます。選挙ではなく、議会として良い政治を行っているかを日頃からチェックして頂くことにより、政治のレベルも一歩ずつ高まってくるものと考えます。



安田そうへいからのお知らせ

- 昭和54（1979）年生まれ、37歳。
- 奄美小、名瀬中、鶴丸高、東京大法学部卒業。
- 東京・新橋でのサラリーマン生活を経て、公益財団法人松下政経塾に進み、「新しい政治のあり方」を追究する。

- 平成20年に名瀬に帰り、NPO法人にて青少年支援活動や環境保全・リサイクル活動を通じた島おこしに取り組む。
- 平成23年奄美市議会議員選挙に挑戦、現在2期目。
- 家族は妻と長男4歳。

※安田そうへい連絡先：
奄美市名瀬古田町5-7
電話：54-7621 / FAX：54-7620
Eメール：sohei@mskj.or.jp